

第1回神戸の都心の『未来の姿』検討委員会会議録

平成26年3月19日

第1回 神戸の都心の『未来の姿』検討委員会

1 日時 平成26年3月19日（水） 午後3時～午後4時55分

2 場所 神戸市役所1号館14階 大会議室

3 出席者

【委員（28人）】

(1) 地元組織代表

浅木隆子	小田俱義
久野茂樹	久利計一
坂本囿昭	清水俊博
高橋喜久二（代理：曹）	富岡良典
永田耕一	奈良山貴士
古川勝	松下綽宏（代理：村上）
三浦繁男	

(2) 市民代表

岩佐光一朗	玉田はる代（代理：高梨）
-------	--------------

(3) 交通事業者代表

石原敏孝（代理：湯山）	奥田英雄
小林隆一郎	庄健介
横山章	上杉雅彦（代理：中野）

(4) 経済団体代表

植村一仁	植村武雄
松田茂樹	

(5) 学識経験者

加藤恵正	柚木和代（代理：牧田）
中尾正喜	長町志穂

【オブザーバー（3人）】

国土交通省	吉澤勇一郎（代理：田尻）
兵庫県	笠尾卓朗
兵庫県警察本部	杉山公一

4 議事

(1) 将来ビジョンについて

(2) 検討委員会について

(3) 提案募集結果の概要について

(4) 意見交換

- ・現在の神戸の都心の良いと思うところ、良くないと思うところ
- ・わたしが想う神戸の都心の「未来の姿」

5 議事の内容 別紙のとおり

1. 開会

○油井計画部長

皆さん、こんにちは。年度末の大変お忙しい中、ご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。

開会に先立ちまして、委員の皆様には1点、ご確認させていただきたいと思っております。

本日は、報道機関より当委員会の会議風景を撮影したい旨、申し入れがございました。議事に入るまでということで、許可したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声)

ありがとうございます。

ご異議がないようですので、撮影を許可することにいたします。

報道機関の方は、撮影をしていただいて結構でございます。

それでは、ただいまより神戸の都心の『未来の姿』検討委員会を開催させていただきます。

私は、神戸市都市計画総局計画部の油井と申します。よろしく申し上げます。

座って進行させていただきます。

まずは開会にあたりまして、神戸市長の久元よりごあいさつを申し上げます。

久元市長、よろしくお願いたします。

○久元市長

昨年の11月に神戸市長に就任させていただきました久元喜造でございます。

神戸の都心の『未来の姿』検討委員会を設置させていただきました。今日は第1回の委員会を開会させていただきました。

委員の皆様には、大変お仕事がお忙しい中、この委員をお引き受けいただきまして、また、今日は年度末の大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

この検討委員会の目的は、一言で申しますと、神戸の都心の中長期的な見地から未来に向かってどういう姿にしていくのかということについて、自由にご意見を出していただき、そして議論をしていただくと、そしてそのうえで、1年以内をめどにこの都心のあり方をどういうふうにするのかプランを作成していくと、こういうことでございます。そして、プランを作成していくうえにあたって、皆様から忌憚のないご意見をお伺いをしていくというのがこの検討委員会の趣旨でございます。

今、日本の中で大きな都市がそれぞれ未来に向かっていろんな方向性を模索をしておりますけれども、都市間競争が激しくなっている中において、やはり都市の成長力をどういうふうにしていくのか、それとやはり都心はどうするのかということが非常に大きな課

題になっている、これは共通した状況だというふうに思います。

神戸を考えてみますと、阪神・淡路大震災でこの三宮をはじめとする神戸の都心も大変大きな被害を受けました。そしてその後、市民の皆さんと、そして行政が協力をしながら、何とかこの復興を成し遂げてきたわけですけれども、しかし、とにかくまちを元どおりの姿に戻すと、そして神戸のまちの震災前のにぎわいを回復をしていくと、そういうようなとにかく元の姿に戻していくということに力点を置かれてきたのではないかというふうに思います。その結果、三宮をはじめとするこの神戸の都心の姿というものは長く変わっていないと、実質的には長く変わっていないというのが今の神戸の都心の姿ではないかというふうに思います。

変えていけないものは、当然、変えてはいけません。しかし、同時に、周辺の都市を見ますと、大阪は梅田を中心に大きく変わっている。そして、西宮北口もそうです。そして、姫路も姫路の駅前が大きく変わっている。そして、現実に大阪の駅前を見ましても、梅田の周辺を見ましても、かなり集客が増えてきていると、そういう状況にあります。そういう中で、この神戸の都心、三宮を含む、北は新神戸駅から、そして南はウォーターフロントまで、そして三宮からハーバーランドに至るこの神戸の都心をどういうふうにしていくのかということを考えることは、神戸の将来にとって大変重要な課題になってきたというふうに考えております。

ぜひこの大事な課題に対しまして、この検討委員会は、いわばこれまでのまちづくりの歩みということ的前提にしながらも新しい発想で、そして神戸らしい都心というのはどういう姿なのかということについて、それぞれの皆さんのご意見を出していただいて、そして大きな方向性を見出していくことができれば、大変ありがたいと思っているところでございます。

大変お忙しい中、ご面倒をおかけいたしますけれども、私どもが意図しているところをお酌み取りをいただきまして、よろしくご参加、そしてご指導、意見の提出をお願いいただければというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

ありがとうございました。

○油井計画部長

久元市長、ありがとうございました。

それでは、これより委員会を進めるにあたりまして、まずはお手元の資料を確認させていただきます。

次第と会議資料につきましては事前に送付させていただきました。本日、資料をお忘れの方がいらっしゃいましたら、申し出いただきたいと思います。皆さん、ございますでしょうか。

それと、本日の配布資料としまして、参考資料1として、A3版の提案募集結果、参考資料2として、今回ご議論いただく都心部の平面図、その他といたしまして、小田委員か

ら提出されたご意見とご欠席の委員からいただいたご意見、あわせて、本日言い足りなかったご意見をご記入いただく用紙を配布しております。

資料に不足がございましたら、申し出ていただきたいと思います。皆さん、ごさいますでしょうか。

2. 委員の紹介

○油井計画部長

それでは続きまして、本日もご出席いただいております委員の皆様をご紹介します。

お手元の資料2、委員名簿をご覧ください。

所属・役職名等は省略させていただきます。

まず、地元組織代表の委員です。

浅木委員です。

小田委員です。

久野委員です。

久利委員です。

坂本委員です。

清水委員です。

高橋委員ですが、本日は代理で曹さんがご出席です。

富岡委員です。

永田委員ですけれども、ちょっと遅れられているようです。

奈良山委員です。

古川委員です。

松下委員ですが、本日は代理で村上さんがご出席です。

三浦委員です。

次に、市民代表の委員です。

岩佐委員です。

玉田委員ですが、本日は代理で高梨さんがご出席です。

ただいま永田さんが来られましたので、永田委員です。

次に、交通事業者代表の委員です。

石原委員ですが、本日は代理で湯山さんがご出席です。

奥田委員です。

小林委員です。

庄 委員です。

横山委員です。

上杉委員ですが、本日は代理で中野さんをご出席です。

次に、経済団体の代表の委員です。

植村一仁委員です。

植村武雄委員です。

松田委員です。

次に、学識経験者委員です。

加藤委員です。

柚木委員のご意見を紹介していただく牧田さんです。

中尾委員です。

長町委員です。

なお、小谷委員、小浦委員、末包委員、関根委員、牧 委員は、本日もご欠席でございます。

次に、オブザーバーとして参加いただく方をご紹介します。

国土交通省の吉澤さんですが、本日は代理で田尻さんをご出席です。

兵庫県の笠尾さんです。

兵庫県警察本部の杉山さんです。

出席者のご紹介は以上でございます。

大変申しわけございませんが、ここで久元市長は公務のため、退席させていただきます。

○久元市長

どうぞよろしくお願い申し上げます。申しわけございません。

(市長退席)

○油井計画部長

お手元の資料1の本検討委員会の要項をご覧いただきたいと思います。

要項の第4条に基づきまして、本検討委員会の進行を務めていただく会長につきまして、事前に神戸市からご依頼をしております兵庫県立大学の加藤教授にお願いいたしたいと思っております。

加藤会長、よろしくお願いいたします。

一言ごあいさつをお願いいたします。

○会長

加藤でございます。ご指名でございますので、会長をお引き受けさせていただきたいと思っております。皆さん、どうぞ会議の運営ご協力のほど、よろしくお願いしたいと思います。

今、久元市長のほうからも、るるこの会議についてお話がありました。私ども経済領域で仕事をしている人間にとっても、かつて都心といえば、CBD、中枢業務地区といえますか、オフィス街のことを指していたわけですね。日本経済の発展の中で、オフィス街で展

開される経済活動というのが都市のいわばエンジンであった。これは非常に貴重な神戸経済を発展させる、まさしく各コアであったわけですがけれども、しかし、グローバル化あるいは情報化が進展する中で、企業の行動も大きく変わり始める、都市の経済の姿も変わり始めるという過程で、もはや都心というのが単にオフィス街だけで構成されるものではなくて、より広い範囲で魅力的な人々が集まる空間としての都心を検討しなければならないという、そういう時代になってきたというふうに私は認識しております。

その中で、さまざまな知恵が集まり、考え方が接点を持ち、イノベーション、都市のイノベーションが起きていく、それが次世代の恐らく都心の姿なのだろうと。しかし、じゃあ、具体的にどういう形をしているのかについては、まだ世界的にも模索をしているという段階なのだろうと思います。

東京一極集中の中で日本経済そのものは、東京とその他という姿に今なりつつあります。その中で、残念ながらその他の一つとしてというべきか、あるいは、ありがたいことにその他の一つとして位置づけられている神戸が、どのような地域経済の突破口を開くのかというのは、大変挑戦的な課題ではないかというふうに思っております。

たまたま先週イギリスで仕事をしておりまして、BBCで、ロンドン対その他、これがどのように考えられるのか、展望を開けるのかという議論を番組でしてございました。グローバルシティビジョン、都市圏域の競争力というのが、今、イギリスでは最も重要な政策課題になっておりますけれども、そういう意味では、市長が指摘された都市の競争力というのは世界的な課題なのだろうと思います。こういうようなことも、皆さん、ぜひとも加味していただきながら、新しい次世代の都心像についてご意見を伺えればというふうに思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

○油井計画部長

報道機関の撮影はここで終了といたします。よろしくお願いいたします。

ここからは、加藤会長に進行をお願いいたしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

3. 議事

(1) 将来ビジョンについて

(2) 検討委員会について

○会長

では、早速でありますけれども、お手元に配布されております議事次第に従いまして進行させていただきたいと思っております。

議事次第(1)の「将来ビジョンについて」と(2)の「検討委員会について」事務局のほうからご説明お願いいたします。

○手塚計画課長

都市計画総局計画部計画課の手塚と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、私からは、(1)の「将来ビジョンについて」と(2)の「検討委員会について」の2点を続けてご説明させていただきます。

まず、将来ビジョンについてご説明いたします。

お手元の資料3というのをお開きください。

まず、策定予定の範囲でございますが、右上の位置図にありますように、新神戸から三宮、元町を通り神戸ハーバーランドに至る範囲で検討をお願いいたします。

それから、策定の検討期間でございますが、一番上に書いてございますように、平成26年度1年間をかけて検討していくということでございます。

それから、各種計画との関係でございますが、神戸市で策定している総合基本計画や部門別計画である「港都神戸」グランドデザインなどの計画と連携、整合を図りながら、都心部での未来の計画として定めるものでございます。

次に、資料4をお開きください。

神戸の都心の『未来の姿』検討委員会についてご説明いたします。

まず、1の検討委員会の設置の目的でございます。

後ほど説明させていただきますが、昨年12月20日から今年1月31日にかけて「神戸の都心の未来の姿」について市民の皆様などから提案募集を募りまして、たくさんのご意見をちょうだいしました。

これらのご意見なども参考にいただきながら、「未来の姿」について、当検討委員会では、より都心に関連の深い委員各位から、できるだけ幅広いいろんなご意見をいただくことを一番の目的とさせていただきます。

そして、検討委員会での議論をもとに、最終的には神戸市として夢のある「未来の姿」を将来ビジョンとして取りまとめていきたいというふうに考えてございます。

次に、2の委員会の進め方でございます。

まず、スケジュールでございますが、今後、策定予定期間の1年間で5回程度、いたしまして、概ね2カ月に1回程度、開催させていただこうというふうに考えてございます。

次に、各回の進め方の留意点でございますが、まずアのところ、事前に資料を送付すること、それから当日の事務局からの説明をできるだけ簡潔にすることなどで、委員の皆様の見聞交換時間をできるだけ多くとりたいというふうに考えてございます。

それから、イのところ、今日も資料を用意しておりますけれども、欠席される委員の方にも事前にご意見をいただき、当日、事務局より発表させていただこうというふうに考えてございます。

それから、ウのところ、会で発言できなかったご意見などについては、後日、ファクス、それからメールなども含めて、文書で提出いただければありがたいと思います。

そして、エのところでは、会は原則公開といたします。会終了後は事務局で議事要旨を作成いたしまして、ホームページで公開するということを予定してございます。

これによりまして、より関心のある市民の皆様を巻き込んで、みんなでつくり上げていくというそういうプロセスを大切にしていきたいというふうに考えてございます。

「将来ビジョン」と「検討委員会の進め方」についての説明は以上です。

○会長

ありがとうございました。

この点につきましては、皆さん、よろしゅうございますでしょうか、ご確認いただくということで。

ありがとうございます。

(3) 提案募集結果の概要について

○会長

そうしましたら、ご用意いただきました資料、もう一つが「提案募集結果の概要」ですか、これについてご説明いただけますでしょうか。

○若林交通計画係長

では、私のほうから「提案募集結果の概要について」ご説明させていただきます。私は、都市計画総局計画部計画課の若林と申します。よろしく願いいたします。

では、資料の5をお開きください。

「提案募集結果の概要について」ということで、先ほど手塚のほうからも少し説明しましたとおり、神戸の都心の「未来の姿」についてということ、昨年の12月20日から今年の1月31日までの期間、市民はもとより広く提案募集をさせていただきました。300名以上、計311件ほどのご意見、ご提案をちょうだいいたしました。

提案募集の内容といたしましては、具体的には、「現在の神戸の都心について、良いと思うところ、良くないと思うところ」、それと『未来の姿』への提案」ということで、皆様から想いをいろいろ書いていただきました。

その概要につきましては、この311件、年代別ですとか、提出された皆様のお住まいだとかというのを1枚目の表に示してございます。

このいただいた意見、1件1件ちょっとゆっくり見させていただきますと、良いところ、また良くないと思うところ、さらに「未来の姿」につきまして、それぞれ1点だけでなく数点、ご指摘、ご意見いただいているものがございましたので、そういったものを少し我々事務局のほうで分類し集計、整理させていただきましたものを、次ページ以降の資料として、概要としてですが、まとめさせていただきます。

1枚めくっていただきますと、「良いところ」というところで集計したものを書かせていただいております、さらには、ちょっと「良くないところ」なんです、実はご意見

を見ますと、もうはっきり「悪い」というように書かれているのもありましたので、「悪いところ」と表現していますが、「良くないところ」ですね、それと、あと最後に「未来の姿」、これがちょっと黄色で書かれていますが、そういったものを、いろいろいただいている中で、テーマ別に分類させていただきました。

テーマといたしましては、それぞれのページの左側のところにございますが、縦に、「景観・街並み・印象」といったテーマ、また、「にぎわい」、さらには、「交通環境・回遊性」といったテーマ、それに、「憩い」だとか「自然」という関係のテーマ、その次には、「観光・シンボル」といったところ、それと、「その他」というように、大きく6つに分けて、「良いところ」なり、「良くないところ」、「未来の姿」ということで、それぞれ整理させていただいております。

少し紹介させていただきます。

「良いところ」のほうのページをちょっと開けていただきまして、左側の1つ目です。「景観・街並み・印象」というテーマの中の例えば上から3つ目です。「旧居留地や北野異人館街は景観に統一感があって好印象」だというようなのがございます。

1枚めくっていただきます。「悪いところ」というか、「良くないところ」の同じようにその「景観・街並み・印象」のところですが、その2つ目、・の2つ目ですが、「雑居ビルや低層ビルが乱立していて、景観的に無秩序で一体感や美しさがない」と。

もう1枚めくっていただきますと、同じようなテーマのところの上から4つ目ですか、「著名なデザイナーに依頼し、旧居留地のように統一された街並みにすべき」と。

このように、同じような観点でも、違う見方、違うご意見をされているということがわかります。

同様に、「にぎわい」のテーマのところを少し見させていただきますと、また、すみません、「良いところ」のところに戻っていただきまして、「にぎわい」のテーマのところの・の2つ目ですが、「街のどこを歩いても、とても楽しい街」だと、「路地裏にも素敵なお店がいっぱいある」と。

こういったご意見がある中で、また1枚めくっていただきますと、「悪いところ」の1つ目の・です。「都心に集客力がなく、現状のままでは早晚大阪に集客されてしまう」のではないかというご意見。

それで、もう1枚めくっていただきますと、同じように「にぎわい」の1つ目ですが、「常に多くの人々が行き交う、にぎやかな雰囲気を持った街にすべき」だと。

このようなご意見をいただいております。

もう1点いかせてください。

また、すみません、「良いところ」に戻っていただきまして、「交通環境・回遊性」のところの上から4つ目などは、「駅と街が地下街や歩行者デッキ通路などで繋がっており、自由に歩き回れるエリアが広い」というようなご意見。

1枚めくっていただいて、「悪いところ」の裏面でございます。「交通環境・回遊性」の欄の下から4つ目を見ていただきますと、「魅力的なエリアが多く点在しているが、繋がっておらず実際よりも距離が遠く感じられる」と。

「未来の姿」のところでは、同じように「交通環境・回遊性」のところの下から3つ目です。「歩いて楽しくなる街、どんどん歩きたくなる街にすべき」と。

こういったご意見がございます。

こうやって少し横並びで見られるようなものもございますが、非常に、それとは別に、それぞれの観点でのご意見もいろいろございます。

それと、もう1枚、一番下にA3版で、地図の上に少し整理した資料も付けさせていただいております。

いただいたご意見を見させていただきますと、都心全体に関わるご意見もたくさんございましたし、またある特定の場所、例えば三宮だとか元町だとかといった場所に特定してご意見いただいている場合もございましたので、それを地域別に少し整理させていただいたものがこのA3のほうの地図に落とした資料でございます。

これについては、1点だけ少し紹介させていただきます。

この左上にございます「都心全域に関するご意見」についての「良いところ」、「良くないところ」、「未来の姿」のそれぞれ1つ目を読み上げさせていただきますと、「山や海が近く、自然を気軽に楽しむことができる」と、これは「良いところ」です。

「良くないところ」では、神戸にしかないという魅力というのがないのではないかとというご意見。

さらに、「未来の姿」としては、各エリアの個性をもっと伸ばせばいいんじゃないかと。

このようなご意見をちょうだいしております。

ほかにもさまざまなご意見がございましたけども、既に事前に送らせていただいているということでご覧になっていると思いますので、「提案募集結果の概要」につきましては、説明はこのぐらいとさせていただきます。

なお、先ほど冒頭説明がございましたとおり、応募いただいたすべてのご意見につきましては、本日、参考資料のほうに記載させていただき配布させていただきました。ご参照いただければと思います。

「提案募集結果の概要」につきましてはの説明は、以上とさせていただきます。

○会長

ありがとうございました。

300件を超える大変多くの皆さんからのご意見であったということでもありますけれども、非常に様々多岐にわたるご意見をいただいているわけでもあります。皆さん、事前に資料を見ていただいていますので、大体、全体像はご理解いただけるかと思います。

現在のところまでで何かご質問等ございましたら、いただければと思いますけれども、い

かがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

(4) 意見交換

- ・現在の神戸の都心の良いと思うところ、良くないと思うところ
- ・わたしが想う神戸の都心の「未来の姿」

○会長

そうしましたら、これから皆様のご意見を伺いたいと思います。

しかし、全体で委員の皆さん30名近くいらっしゃいまして、ここで丁々発止のディスカッションをしたいところですが、なかなかそうもいかないというのが実態ではないかと思えます。今回、第1回目ということもありますので、もし皆様のご同意が得られれば、順番にといいますか、お一人ずつともかくお思いのところをご発言いただいて、あと、この会議をふまえて、事務局のほうで、資料の一番後ろに意見記入用紙という紙が入っていますけれども、ここにご記入いただいて次回に備えるというような今回は進め方をさせていただければと思うのですけれども、いかがでございましょうか。それでよろしゅうございますでしょうか。

○会長

ありがとうございます。

繰り返しですけれども、第1回目ですので、皆様のお立場から、一番、今、思っておられる神戸の都心のいいところ、悪いところ、あるいは将来への展望といいますか、考え方といいますか、この辺りは今日のご自由にご発言をいただければと思います。

30名近くですので、あと残った時間が90分ぐらいですので、大変申しわけありませんけれども、2～3分ぐらいということで、恐縮ですが、お願いしたいと思います。

○委員

神戸の都心の未来ということで、ちょっと思ったところを申し上げます。

神戸は、本当に山と海という短い距離でとても自然が良く、そして子どものための環境というのがつくりやすいとこだと思うんですけど、そういう都市型の生活の充実度を含めて、家族で健康生活満足度の高い都市という心地よいまち、人が集まることによって心地よくなるまちというのを提案したいと思います。

これは、デザイン都市としても生活しやすいまちというのが、やはり神戸の、大阪でもなく、東京でもなく、やっぱり神戸っていうのは独特のもので、そういうことをポイントに開発していきたいと思えます。

三宮の再開発などは、本当に神戸独特のものにしていただいて、もう少しJRにも頑張っていたらきまして、貧相とっていいぐらいのホテルがやはり駅前にぼんとあるというのは寂しいものですから、そういうところにすばらしいホテルを誘致していただく。そして、コンドミニアムのようなものもつくっていただくということで、長期滞在型ができる

んじゃないかと思っております。

学校関係なんですけど、これは前にも、私、市長さんの会でよく言ってましたんですけど、動物園がとても、学業環境といいますか、学園都市にしたらいよいよなところに大きなスペースをとっていますので、あれを何とかポートアイランドとかどこか違うところに移して、そこを神戸の学園都市という、北のほうにありますけど、もっと三宮に近い身近なところでしていただきたいなど。

これは何か借地の関係で動物園だからといって貸した土地らしくて、すぐそれに転向できるというのは難しいというふうに聞きましたけれど、神戸は外国人が非常に多いところで、日本国中でもこれだけ多くの宗教があるところも少ないと思うんです。今、神戸の子どもたち外国へ留学させたり、日本中の子ども外国へ留学して語学を覚えるというようなことをしておりますが、できたらこういう環境を活かして神戸へ子どもたちを留学させて、外国人の協力を得まして、外国人の学校がやはりセントミカエルとかカナディアンアカデミーがありますから、外国人の家にホームステイさせてでもそういう環境をつくることによって、親もまた神戸がふるさとのように思い、子どもたちは学んだところをふるさとと思い、そして今後良くなっていくんじゃないかと思えます。

代官山に蔦谷書店という、私もこの間も見てきたんですけど、非常におもしろいものができていまして、ああいうものが神戸に誘致されたらどうかと思って、私、ちょっと後でお出ししようと思ってプリントにしてきたんですけど。

それと、今、加納町の歩道橋が非常に悪くて誰も通らないんです。ああいうところを、もう本当に車いすの方でも、ぱっと信号が変わって一斉に四方八方から渡れるようなそういう環境にしていだいたり、もっと、神戸にあります温泉ですね、スパを世界中に広げて、医療都市とスパっていうのをくっつけたような環境にしていっていただきたいと思えます。

時間ですので、また提案書をお出しします。

○会長

よろしく願いいたします。

○委員

環境的というか、歴史的なものを、ちょっとだけ。

明治維新が起こって日本は富国強兵という政策をとりました。強兵ということで問題になったのが1905年、日露戦争の終結です。その結果、「浮いた、浮いた」になったわけですが、1945年に日本は敗戦ということを迎えました。それで、その40年後に、1985年に、いわゆる、1905年、1945年、1985年に、いわゆるプラザ合意で為替の通貨の変動を受けて国柄が一変してきたと。次はといたしたら、2025年、これが日本の危機に当たると言われているわけです。これが歴史的な流れというふうにとったほうがいいと思えます。

そこで、新市長が出てきました。それで、今まで神戸の総ざらえをやらなきゃならない、

こういうことになってきているわけです。そこで、私は、自分の意見を簡単に3つの項目に分けました。

1つは、真ん中に書いています、市役所の建て替え。これをいわばアメリカでいえばエンパイアステートビルのようなもの、あれは100階以上の建物がありますが、年間1億1,000万人の集客をあのエンパイアステートビルでやっております。本庁舎をいわば低層階にもってきて、この土地や建物、神戸市役所の土地、建物は神戸市民のものであります。したがって、三宮駅とか阪急三宮駅は私鉄、私企業のものであります。だから、これはあまりあてにできません。したがって、市民のものをまず足元で考える必要があるというふうに考えます。したがって、集客を持ってくるのにそういう目玉のものをもって行って、まず自らが新市長のもとで変わっていく、こういうことが大事であろうというふうに考えます。

これは資金はゼロでいったらどうかと思います。そのために、一部売却とか、いわゆる賃貸とかいうふうなもの、神戸市債、建設債みたいなものを発行して、大企業の財閥系に売るとかそういうものではなくて、市民債として市民の所有のものにして、30年ぐらいで利息等々が全部返ってくる、プラスアルファが出ると、こういうふうな発想で臨んだほうがいいのではないかと思います。

エンパイアステートビルの中に、スカイダイドなんていうのがあります。上ったことおありになられると思いますが、館内には飛行場になっております。いわゆるいすが動きます。そして、いわば神戸の酒蔵はこうですよ、あるいは北野町はこうですよ、神戸の港はこうなっていますよというのが飛行機に乗った気分で紹介を受けます。大変にぎわい、朝の2時までやっております。こういうふうなものを神戸市庁舎と一緒にして、そういったものを建設、金が要らない建築方式をとったらどうかと、これが第1点であります。

あと2点目、3点目については、僕は、北野町というか、新神戸で仕事をしておりますが、LRTみたいなものを通していただきたい。車優先から人優先の政策をとっていただきたい。

次に、JR三宮駅の北の整備。二宮地区なんかを、医療産業都市とあわせて、R&Dの機能、いわゆるリサーチ・アンド・ディベロップメント、こういった生活文化産業のR&Dを三宮駅の北に集めていただきたい、こういうことを希望しております。

○会長

ありがとうございます。

では、お願いします。

○委員

私が神戸に生まれたのは昭和7年です。今年で82歳になります。小学校1年の時に阪神大水害がありました。そごう南側に明治33年創業の店がありましたが、生田川からの土砂で2階まで積もり、2階から出入りするという大変な生活でした。それから敗戦と大変な

時代で、空襲でそごうの地下に避難したことを今でも思い出します。

私は、このまちを活性するにあたり、地理的にどういう歴史をたどり今日があるか、しっかりと頭に入れて、計画せねば発展はないと思います。

阪急三宮の北側で、店を継ぎ、理事長を20年務めさせていただいておりましたが、その間に阪神大震災にあい、店は半壊、自宅は全焼となり、壊れた店で寝泊まりし、夜は残った各ビルをパトロールしました。幸い店は半壊でしたので、皆様と力を合わせて、1年後にはサンキタ通りを復興できましたが、いろいろ大変でした。

繁華街ですので、いろいろハプニングもありました。カラス族、客引き、ごみの問題等、治安は悪く、これまで11年間ほど、警察ご当局と一緒に有志の皆様と、夕方6時頃より1週間に1回パトロールしてきました。今は月1回ほど、パトロールしており、治安が本当によくなりました。

○会長

ありがとうございます。

○委員

今、ご提言されておられた駅ビル中心から脱却していくというようなこと、非常にうれしいご提案だと思ひまして、あそこで囲い込みしていただかないように、やはり駅に来られた方がずっと各町へ入っていくというような形へ何とかならないかなと思います。そのためには、それぞれの地元がしっかりそのニーズにこたえていくということが必要になるかと思うんです。

やはり回遊性というのは、ただ単に人が買い物してくれると、そういうことだけではなくて、防犯という面にも非常に繋がっていると思うんです。例えば一つのビルの中で、僕はうちのビルでよく言っているんですけど、絶対もうエレベーターは使わないで非常階段を歩くようにと言うんです。そうすることによって、そこでの恐喝事件とか、あるいはややこしい話が減ってくる、またそこを美しくしていく、掃除もしていくというような形になるので、回遊性というのは、ただ単に物を買うということだけではなくて、まち全体の防犯にも繋がっているという発想が都市計画の中にも必要かなと思います。

それと、神戸の都心の「未来の姿」というところに、何かテーマ性が必要なのではないかなと思うんです。例えば沖縄なんかですと、明らかに東南アジアというもののハブになると、核になるという、人材もモノもですね、というようなテーマを持っています。それから、京都の場合ですと、もうここ2、3年で琳派を中心にした発想にしていくということで、市長も知事も非常にそれに力を入れて、お菓子もつくっていく、あるいは着物もそういうものを中心にしてやっていくと。

じゃあ、神戸は何をテーマにしていくのかというと、これはやはり「ハイカラ」というテーマではないかなと思っているんです。そのときに、もう一つ、やはり19年前、20年前に震災を受けましたから、「絆」とか「ご縁」とかいうものを中心にしたテーマを持って

いくと。それは、例えばうちのまちづくりでしていっているのは、今、それぞれのまちに、長町先生、またご協力いただくんですけど、まちが中心になってストリートミュージアムというのをつくって作品を埋めていっているんです。そういうときに、ただ単に、例えば高島屋の美術部に、この先生の作品を買います、入れますということだけじゃなくて、よく僕は言うのは、1万円の作品をご寄贈いただく。全部寄贈にする。それを1万円いただくために100万円かけてお願いに参ります。そこのところに絆ができ上がってくるんです。

例えば一つの例でいいますと、あそこに三輪華子さんの作品が入っていますが、これは休雪さんの娘さんです。休雪さん、お茶の世界ではもうナンバーワンのところだと思っておりますけど、休雪さんがうれしそうに「華子の作品がセンター街にあるんだよ」って言うんです。そうすると、京都のお茶の先生方、皆、見にくられるんです。それで、「華ちゃんの見たよ」って言うと、また、休雪さん、非常にうれしい、みんなに言う。神戸へ訪ねてくる。それで「パンがおいしいね」って言われるとか、そういうふうなご縁が繰り返し、繰り返し波のようにやっていくというようなまちづくりをしていくべしではないかなと思います。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

私どもの地域は本当に三宮駅のすぐ南なんですけども、戦後、米軍のイーストキャンプとして接收されまして、繁栄が、まちの繁栄が遅れたわけでした、それで、フラワーロードから以西のほうに繁栄していくようになりまして、どうしても東のほうは商店街も何もないという形でかなり遅れましたんですけども、近年、やはり夜間景観形成の推進が活発になりまして、夜間景観は非常にきれいになりまして、観光客を大分呼べるようなことになっているんですけども、実際あのJRのところにあります神戸市のインフォメーションセンターが非常にどこにあるのかわからないという人が結構多くて、インフォメーションセンターに行けば大概のことはわかるんですけども、インフォメーションセンターの担当者も嘆いていましたけども、神戸市さんの広報、報道がもうひとつじゃないかと。

それと、本日、クィーンエリザベス号が四突に入港してましたんですけども、これ、午前6時40分かなんかですけども、この発表というんですか、報道といいますか、事前のインフォメーションがあまり我々聞いてなかったんで、たまたま私の事務所から見えたんでわかりましたんですけども、そういうことをもっと神戸市さんがあらゆるメディアを使って報道していただくようなことになったらいいかなと思います。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

私の関わっているトアロードというまちは、神戸で、ちょうどこの地図にありますけど、北野とハーバーランドとかウォーターフロントの地区を一直線で結ぶ、坂道のまちなんですけど、トアロード、北から南まで通している間に、神戸は横に細長いまちなので、山手幹線道路、それから鉄道の高架、それから南側の2号線から繋がっている西へ延びる道路、それで分断されていまして、いつも思うのは、高架から南側はかなり集客があって人通りも多いんですけど、なかなか南北に歩いて流れる人っていうのが非常に効率悪く思うんです。それはどうしても、信号の状態とか、ガード下をくぐるときの、ボトルネックになっているので、渡りにくいとか、時間がかかるということがあって、なかなか南北の人の流れが難しいように思います。

それを改善するにも、やっぱり神戸は歩きやすいまちにやって、市民の方からの意見もありましたけど、各地域のつながりが悪いってことです。それはやっぱりもう日常的なことですけど、歩きやすい歩道を維持していくことが非常に大切かなと思っております。ですから、歩道上の看板とか自転車のこととか、歩いて気持ちのよい景観のまちづくりですね、そういうちょっと基本的なことを将来もっと徹底してやっていくのが一番手始めの神戸の将来の形ではないかなと思っております。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

都心の高層ビルがかなり乱立して、特にマンションとかが増えていたりして、それはそれでいい部分もあるんですけど、建物自体にデザイン性が乏しいというか、寂しいというか、どんどんまだそういうものが増えていくと。先般、マカオとかシンガポールもしくは香港とか行っているんですけど、建物自体がとても形状がおもしろいと。そして、夜間景観がデザインされていますし、LEDも使っているんですけど、そのLEDの使い方もとてもきれいやと。そういうところが民間主導ではなかなかやりにくい部分があると思うんで、何とか行政主体になってその辺を統一感あるおしゃれなものにしてほしいと。

ハーバーランド、あの辺が結構きれいな形になっていて、クイーンエリザベスも今日泊っているんですが、そこから見る多分今日の夜間景観というのはすばらしく、彼ら富裕層も一生の思い出になるのかなというふうなことになると思いますので、もっともっとそういうものを港を中心にやってほしいと。それで、ちょうど4年後ですか、開港150周年になると思いますので、それを目指して、もっと統一的なすばらしい花畑のような都心の夜景をつくってほしいかなという気はいたします。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

旧居留地なんですけども、旧居留地には「まちづくりガイドライン」というのがありまして、今日の当会のテーマが「都心の『未来の姿』」ということなんですけども、旧居留地も都心の一部を構成しているのではないかと自負しているんですけども、その中で一つのキーワードとして、「にぎわい」というものもあります。このにぎわいというのは、決して観光地化をするようなにぎわいでなくて、落ち着いた業務地としてのにぎわい、発展というものを目指してガイドラインを策定し今日に至っております。

ただ、業務地としてのにぎわいというのがやっぱり大事でしょうね。業務地としてのにぎわいというのでいくと、神戸力というんですか、やはり経済的な力が少し落ちているのではないかというのを危惧します。決して居留地だけではなく、神戸全体としてもそういう部分がやや陰りがあるのかな。そのためにまちの発展、箱をきれいにつくれば人が集まり発展するというわけじゃなくて、やはり底力。そのためには、神戸には大きな港があり、その力も十分使えるはずですし、旧居留地の建物は昔は海に向けて商売していたのが、みんな裏通りを使って商売しているというのをある建築家の方がおっしゃいましたけど、まさしく、海に近い、山も近い、これだけの背景をうまく使えば、もう少し変わった形の中心の姿ができるんじゃないかなというふうに思います。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

三宮中央通りというのは、地下鉄ができたときに、こう横に、ちょうどセンター街からいうと、すぐ南側のところで600mある通りなんですけれども、この600mというのは何の距離かおわかりになりますか。実は三宮駅と元町駅の間の距離です。たかだか、逆にいうと、三宮駅と元町駅は600mしかない。その間になぜか2つも駅があるって、これは歴史をひもとくと、その昔に元町駅をつくるために三宮駅を600m実は東へ移したという背景があるそうです。だから、どっちも何か中途半端な駅が2つあるんです。

これがやっぱり、ある意味では、神戸の中心線を損ねている要素がどうもあるような気がして仕方がないんです。だから、できたらもう一遍一緒の駅にしてもらわれへんかなと、これは一つの方法論としてね。そういう面ができて、そこにターミナルというのができるのと、例えばウォーターフロントへ下りていくアプローチについていうと、今ある全部の南北、それこそフラワーロードから鯉川通りを過ぎてタワーロードまで、ほとんど全部の道がそのアプローチの道に変わることができます。そういうもっと面としてターミナルを集中化すると同時に、そういうウォーターフロントへのアプローチをつくっていくというよ

うなひとつの考え方をしないと、今のままですと、どちらも中途半端なままで、その間にももちろん繁華街はあるわけですが、なかなかそういうふうにならないというところはあるのかなという気がずっとしています。

それと、もう一つは、実は僕の世代が多分ほぼ最後の世代になると思うんですけど、自分とこの店の上に住んでいたという経験があります。やはり住んでいることによるメリットというのは、今考えてみるとものすごく大きい。神戸という都市の規模というか、150万ですけど、山のこっち側だけで考えると、多分、半分ぐらいしか住んでないわけです。それぐらいの規模のまちであれば、逆に、もっと都心というか、まちの中に人を住ませて、それもできたら商売人であれば自分とこの近くに住むという作業をすることによって、ここにも書いてありましたけど、早く店が閉まるとか、そういうものを少しずつ変えていくことが可能になるかというふうな気がしますが、何かそういう都心居住の方法論をまた考えて都心を考え直していくと、また違ったものになるのかなというふうには思います。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

私どもの地域は、昔は元町商店街しか、大体、商業地がなかったんですが、今や乙仲通というのも新たな魅力を発信していますし、また栄町通も非常に住民が増えておりまして新たなことになっておりまして、大体、私どもの地域は、住民だけで、震災後、約1.8倍にまで膨れ上がっていて、ほぼ2倍近く住民が増えているということなんですが、やはりそういう中で、できるだけ回遊性を増やそうという形でまちづくりを取り組んできております。

実は今日配られた資料の中で、「都心の未来の姿 地域別整理」という地図を見ていただいて非常に感じたのが、非常に三宮一極集中をしているのではないのかなと。ここに載っている意見が総数666ありまして、324が三宮に関するご意見ということは約48.6%ですので、50%ぐらいが三宮と。一方、西のほう、神戸・ハーバーランドのほうのご意見というのは9.9%しかないということです。それというのは、逆にいうと、新神戸・北野が12.1%しか意見がいただけてないということから見ていきますと、非常に神戸駅というのが、注目を浴びてないというか、余り人が行っていないのではないのかなと。また、それに比例してウォーターフロントも6.6%しかご意見がいただけていないと。特に海を活用するウォーターフロントというのは、どうしても、皆さん、三宮からお考えになられると思いますけども、私自身は、逆に神戸駅からのほうがウォーターフロントは近いのではないかと。ですから、そういうふうな見方も必要ではないかというふうに思っております。

何でも三宮からものを見るのではなくて、やっぱり神戸駅のほうからも、ものを見ていかないといけませんし、新神戸とか北野のほうからも物事を見ていかないといけないと。

ですから、特に重要なのは、僕は、新神戸、それから三宮、それから神戸駅という端端、ポイントポイントになるところから切り込んでいって、新たな未来の姿というものを議論していただければ、非常にうれしいなと思っております。ですから、何もかもが三宮からお話が始まるというのではなく、各地域からこの未来の姿というのをご検討いただければ幸いではないかというふうに思っております。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

東まちづくりの会は、JR三宮駅の真東、あじさい通りを中心としまして9団体ほどで活動しているんですけども、実績としまして、来月インフィオラータが始まるんですけども、発祥の地として約20年ほど頑張ってきて今日まで至っています。

ちょうどそこには中央区役所、勤労会館があるんですけども、いま現在、中央区役所、勤労会館にお勤めの方には怒られそうなちょっと案を一つ述べたいんですけども、三宮再開発と昨今言われていまして、この提案書、よく本当に網羅されていると思うんです。これに集約されているのが良きも悪きも尽きると思うんですけども、いまだに神戸らしさというのは、私自身、神戸っ子でずっと育ってきてまして、神戸らしさって人に言われたって、神戸らしさって、言葉にあらわして「これが神戸らしさや」と、いまだにピンと来ないんです。そこのところは、これから皆さんのご意見の中で、これが神戸らしさかなと何となく出てきそうな期待もあるんですけども。

東まちづくりの会で中心地に中央区役所、勤労会館がありまして、同じ再開発するんだったらそこを、えらいまことに申しわけないですけども、ぶっ壊していただいて、そこにバスターミナルをつくっていただいて1階、2階、そしてその上に勤労会館なり中央区役所を持ってくると。バスターミナルを集約すると、駅の目の前ですし、利便性はうんとさらに上がるんじゃないかと。

それと、海と山は、神戸、なるほど車では30分圏内で行けるんですけども、点で行こうとしましたら、割と不便なんです。この際、あいつばかな意見言っていると思われるかもしれませんが、じゃあ、一層のこと、六甲山頂と神戸空港をそれこそロープウェイ一本で結んでゴンドラで、まち全体をいわゆるレジャーの雰囲気にするような構想を持ってもいいんじゃないかと思うんです。だから、観光も市民の足としても、六甲山から神戸空港へゴンドラで、まちの昼間の風景、それから夜景の風景を見ながら楽しむのではないかなと、ふっとそんなばかなことを思っております。

以上です。

○会長

ありがとうございます。大胆なご提案をありがとうございます。

○委員

大胆な意見ぐらいなかったら。

○会長

お願いいたします。

○委員

まず神戸は、やはり海とまちがあって、そして山がすごい近くにあるというところは、ものすごいセールスポイントというふうに思います。よく港で横浜と比較されますが、確かに横浜はウォーターフロントはすばらしいと思いますが、山がない。そういう意味では、神戸はすばらしい景観があるなど思っています。

そういう意味で、ハーバーランドは、ウォーターフロントのところから山が見えますし、ロケーションとしてはすばらしいところかなと思います。ご存じのように、ハーバーランドもまち開きから一昨年20年がたちました。今は新しい商業施設が出てきて、まち開き当初ぐらいのにぎわいで今にぎわっています。ただ、そのハーバーランドの中でも高層マンションが2棟、建設が進んでいますし、周辺にはマンションが結構建っていますので、そういった意味では、観光客の方だけでなく、やはり居住者の方もウォーターフロントで楽しんでいただくような仕掛けが必要なのかなと思います。

それと、神戸は、北野、三宮、南京町、元町、そしてハーバーランドと、それぞれの特色があると思いますので、先ほどもおっしゃっていましたように、回遊できる仕掛け、特に安全・安心のところをふまえながら、楽しんでいただけるような仕掛けが要るのかなというふうに思います。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

今日は時間がございませんので、「未来の姿」は、今後といたしまして、神戸のよいところと悪いところを言わせていただきます。

良いところでは、ルミナリエは何十万人と集客できるイベントは神戸では他にありません。にもかかわらず、観光客を元町駅で降ろして、三宮駅から帰してしまうとだめだと思います。観光客を回遊させる方法を考えてほしいと思います。

悪いところは、JR元町駅ですが三宮駅より歴史が古いのですが、東口にはエスカレーター、エレベーターがない、高架下はハトのフンで汚いです。構内を整備して駅の機能をアップしたほうが観光客にも喜ばれ神戸の発展になると思います。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

今、まちづくり協議会の皆さん方が非常に貴重なご意見をおっしゃっていますけれども、私は、「未来の姿」ということで申し上げたいと思います。

皆さんそれぞれ立場が違うので、それぞれのご意見確かにいいと思うんですが、やはり新神戸から三宮、元町、それからハーバーランドを通じて、一つのテーマというか、そういうものを通じたものが必要なんじゃないか、統一したものが。

私もあと4カ月もすると、うれしいのか、悲しいのかわかりませんが、後期高齢者になります。これは、もうここにいらっしゃる皆さんがやはりいずれはそういう道をたどると思うんです。高齢者が増えるということはやはり考えた上で、まちづくりをしていかないといけないんじゃないかなと。また、障害者、体の不自由な方も、まちづくりが進むと、どうしても階段とかそういうのが増えてきますので、できるだけバリアフリーなもの、それで、ユニバーサルデザインというものをよく考えた上でのまちづくりにしていかないといけないんじゃないかなというふうに思っております。

また、便利になればなるほど、新しいところへ行きますと、私も高齢者ですので、案内表示板とかそういったことが非常に大事なことで、しばしば私もちょっと道に迷ったりするんですが、そういった面でのやさしさとか思いやりとかいうものを含めたまちづくりにしていただければ、ありがたいなというふうに思っております。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

今日は2点ちょっと教えていただきたいなと思っております。

市長さんが代わられて、路面電車の復活というのが掲げられました。私たち市電とか花電車が懐かしく思われる世代にとりましては、うれしいな、懐かしいなと思っております。

ただ、それが、今、次世代の分ですか、隣に国交省の方がいらっしゃいますので、後で教えていただきたいなと思うんですけど、LRTというのは、いいところ、悪いところ、いろんなことがあると思うんですけれども、神戸のまちにマッチするものなののでしょうか。

私は、どうしても路面電車といたしたら、坂の多いまち神戸だったら、海外でサンフランシスコのあのケーブルカーのような路面電車とか、そして、テレビで見ますポルトガルの何か軒先を縫うように走る、あの狭い道を走る路面電車とか、そういったものが神戸にあったらいいのになと思います。神戸のような東西に整備されていますね、阪神、阪急、JR、そして海岸線、山手線ですか、西神の地下鉄など、全部、東西に整備されていますけれども、高齢者が多くなりますと、やはり南北に交通網を整備というのは大事なんじゃないかなと思っております。それで、路面電車の復活というのは、南北に、トアロードの東天閣から、どーんと下の大丸通して居留地まで走るような路面電車があったらいいのに

などと思います。それは観光客にもいいかもわかりませんが、日常の生活にとっても市民の足となるような整備ができたらいのになと願っております。それがLRTありきの路面電車の復活というのは、どうなんでしょうかなと思っております。

もう一つは、先ほどもお話出ましたけれども、バスターミナルの整備。バスターミナル、特に市バスのターミナルはどこなのかわかりません。それと、もう一つは、四国とか兵庫県の北部から来ます高速バスのターミナルも、ミント神戸の辺りとか神姫バスのあの辺りがバスターミナルとしては不十分じゃないかなと思います。だから、やはりほかの地域からの集客も見込みましたら、高速バスのバスターミナルの整備、ちょっと勤労会館を壊せとは言いませんが、けど、その辺りのバスターミナルの整備というのは大事なかなと思います。

そして、神戸というもののターミナル駅はどこなのか。新神戸駅というのはわかるんですけども、三宮、そして神戸駅、どちらもターミナルの要素は持っていないながら、やはりターミナルになりきっていないというところで、その辺の整備も必要じゃないかなと思っております。

○会長

今、ご質問ということで2点いただいたんですけども、後段のほうはまたこれからいろいろ議論もあろうかと思うんですけど、そのLRTについていろいろと話題にもなっていますので、事務局から一言だけちょっと現時点での何かコメントがありましたら、ごく簡単に。もしコメントできるのであればお願いしたいと思います。

○手塚計画課長

LRTでございますけども、市長のほうはゼロベースからとりあえず検討するというところで、来年度少し予算を付けていただきましたので、それに従って、今、委員の先生からご指摘あったようなこともふまえて、導入の、ゼロから、どこに、どういう形で、できるものか、できないものかということを検討していきたいというふうに考えてございます。

○会長

まだゼロベースということで。

そうしましたら、続きまして、お願いできますでしょうか。

この並んでいる順番とは少し違うかもわからないんですけども、交通事業者代表ということでお願いしたいと思います。

○委員

皆様のお話を大変興味深く勉強にさせていただいて聞かせていただいております。

私ども、阪神なんば線という路線ですね、近鉄さんとの相互直通で奈良と三宮を結ぶということで、ことしの3月でちょうど5周年を迎えさせていただきます。私どもの鉄道は、もともとは非常に生活感の強い沿線でございます。通勤・通学で乗られる方がほとんどという中で、やはりなんば線が通りました後は、少し足を伸ばした、観光というほどでは

ないですが、お出かけというような形で、遠方、奈良、大阪から来ていただくというようなことを考えたときに、やはりこの神戸というまちが、非常にお客様を集めるにあたって、大変魅力的な重要なエリアであるという認識をしております。

その中で、やはりどうやってこの神戸の魅力を遠方の方に、大阪、奈良の方を中心に知っていただいて来ていただくかということは、私ども沿線活性化という中で、その魅力をいかに発掘して伝えていくかということを経営の中でも考えておりました、実は私事ですけども、私、出身は実は大阪でございまして、今、神戸の三宮に住んでおるんですけども、やはり大阪からしますと、神戸というまちというのは非常にあこがれのまちであるのではないかなと思っております。それはやはり数々出てきています、ハイカラ、おしゃれというようなイメージというものが中心にあるのかなと思いますし、何にあこがれているのかということを経営的に考えておると、やはりこの神戸というまちに住んでいる皆さんのライフスタイルみたいなところに起因するものが、大きいのではないかなと考えておりました、海、山のあるロケーションの中で、非常に神戸のまちの特徴というのが地上を気持ちよく歩けるまちなのかなと感じておりました、こういったところが大きく例えば梅田なんかとは違うところなのかなと思っております。

そんな中にパン屋さん、ケーキ屋さんなどすてきなお店も並んでいて、その中で人々が非常に気持ちよく快適に暮らされていると、そういったまちの魅力というものが非常に強みなのではないかと感じておりました、ただ、逆に悪い点というほどではないんですけども、やはりその魅力というものが非常に伝わりづらいものなのかなと感じております。

ですので、先ほど皆様からのお話にもありましたが、どのようなテーマでこの神戸のまちというものを打ち出していくのかということの方が非常に重要で、またむずかしいポイントになるのかなというふうに感じております。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

阪神さんのほうは興味深くとおっしゃっていましたが、私のほうは、だんだん肩身狭く、大変ここに座っていていいのかなと思いつつながら、話、一生懸命、聞いておりました。貧相なホテルのお話、あるいはインフォメーションのわかりにくさ、それから駅を一つに、ターミナルにしようといったお話、あるいは三宮一極集中じゃないと、いろんな駅から多角的に見ていくんだというお話、元町そのものの駅の汚さですね、きれいに快適に充実させていこうというお話、いっぱいお声いただいております。

もともといただいております提案募集のほうも、しっかり読ませていただいたんですけども、お褒めも少しだけいただきました。活気ある三宮駅周辺、交通機関の利便性の高さ、駅とまちの繋がりのよさ、歩き回りやすさ、こういったこと、わずかでしたが、お

褒めいただきました。

ただ、一方で、やはり駅に降り立ったときの神戸らしさが感じられないじゃないとか、どの都市とも変わらない雰囲気の前だねとか、低利用、集客力のなさ、にぎわいのなさであったりとか、乗り換え経路のわかりにくさ、空間の狭さ、ごちゃごちゃ感と、倍以上のやはり、お叱りじゃないんですが、激励のお言葉いただいたと思っております。

もちろんこれでへこんでいる場合じゃありませんので、我々鉄道事業者としてやれることをしっかりやらなあかんということで、いいと言っていたところはやはりしっかり伸ばしていかなあかんと思っています。活気ある駅前空間の形成、それから便利な交通機関、こういうのは、地元を含む皆さん、もちろん他の交通事業者の皆さんと一緒にやっつけていかなあかんと思いますし、まちとの繋がり、こういったこともしっかり伸ばしていかなあかんと思っています。

また、これからもっと頑張れという、神戸らしさであったり、にぎわいの追求であったり、わかりやすい案内とか、くつろげるような空間と、こういったことは今できてないかもしれませんが、自治体の皆さんとか、あとここにいらっしゃる皆さんとか、交通事業者の皆さんと、しっかり考えながら改善していけたらというふうに思っています。

「世界とふれあう市民創造都市」というふうに書いてありました。都心部のここがやはり引っ張っていくような絵を、未来の姿を描かないかんのかなと思っています。その中で鉄道事業者、やはりサポート部隊かなと思っておりますが、しっかり、我々、地域の皆様、働く人、学ぶ人、住む人、皆さんの足としてサポートできたらというふうに思っています。よろしく願いいたします。

○会長

ありがとうございました。

では、お願いします。

○委員

私ども、市役所の中の鉄道であり、地下鉄であり、バスを運営してございます。いろいろ、今日、ご意見をいただいております、交通局としても、山手線の新神戸駅、三宮、それから海岸線の大丸、みなと元町、ハーバーランドがあります。今回これらの駅が関係しておりますので、しっかり役割を果たせるように、この中でも十分議論させていただきたいと思っております。

いろいろ、いいところ、悪いところがあり、悪いところが自分の中では一番目についてしまうんですが、ご指摘のあります新神戸駅でも、少し汚いんじゃないとか、暗いとか、いろいろございますので、当面は新神戸駅も表の顔、玄関口としてふさわしい内容にリニューアルを、次年度以降、検討しているところでございます。新神戸もそういった役割を果たしていきたいと思っております。

それから、三宮駅で、JRさん、阪急さん、いろいろなお話が出ておりますので、そのの

接続が交通局の地下鉄の山手線と連絡してございます。乗り換えが非常にわからないということもございますので、このときを活用して動線も含めてリニューアルをして、わかりやすくやっていきたいと思っております。三宮駅ももう30数年たっておりますので、リニューアルする時期にも来てございますので、この時期をちょうどいい時期ととらえて参加をさせていただきたいと思っております。

それから、もう1点、鉄道事業者と名簿はなっておりますが、市バスも先ほどご指摘のありましたとおり、三宮駅で、駅の北側、それから南側、東西にバス停がございます。そこは観光バスでなく路線バスとして、一般市民の足としてバス停を設置していますが、ちょっと分散してございますので、見た目には集約化したほうがいいというご意見もいただいています。バスについても、どういった方法がいいかということもご意見の中で出ささせていただければと思っております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

大阪はグランフロント、百貨店の建替えなど再整備が行われています。京都は伝統文化、歩いて楽しいまち、歩くまち京都を推進し、看板なども調和するような規制をかけ、観光による人気があがっており、外国人もたくさん来ています。

大阪～神戸間の阪神間は非常に人気があり、特に神戸は交通面がすばらしく、陸では鉄道、それから新幹線、高速道路があります。空港もあり、港もある。陸海空の交通機関が全てそろっている素晴らしいまちです。また、特徴として、山と海が近くて、高台から海が望めたりと非常に魅力があるため、人気があるのだと思います。そのような中ですが、陸海空と交通が整備されているものの、十分に活かされていない部分があるのではないかと思います。このあたりを議論することで神戸の特徴をうまく活用できればと思います。もうひとつ、大阪の開発や東京の開発をそのまま神戸に持ってきて良いのだろうかと思います。神戸の魅力の一つがなくなってしまうのではないかと思います。どこの駅前にもあるような同じ店を持ってきて、本当に神戸の魅力が続いていくのか疑問です。そのあたりをこれから議論していただければと思います。市長から都市間競争というお話があったかと思いますが、神戸と大阪、京都が競争するのではなく、それぞれの特徴を活かしながら、この関西圏が発展することで国際競争力にも勝っていくことを目指していくべきかと考えます。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

ポータルライナーの今の現状だけ申し上げますと、1日あたり、大体、今6万3,000人ぐらいをお運びしております。朝の段階で、大体、今2分23秒ぐらいの間隔で1時間に23本

走らせております。医療産業都市、あるいは大学の進出、あるいは空港の需要等々で、これからもお客様が増えていくということもございまして、今の持っている車両2編成さらに追加発注いたしまして、朝の輸送力の確保に努めていきたいというのが今のポートライナーの現状でございます。

医療産業とかこういったものがポーアイ2期等で増えてまいりますと、おそらく従事される方々は、ポートアイランド、もしくは三宮、もしくは元町、あるいは東のほう、いろんなところに、神戸の割と近辺に、三宮中心部の近辺にお住いになられるのではないかなというふうに思っております。こういった方々が、住み、憩い、集い、こういった仕掛けの中で、三宮の魅力という、あるいは元町、あるいはハーバーランドの魅力というのをどんどん高めていくべきだろうというふうに思っています。

ちょっとかじったんですけど、観光におりましたときに、やはりそれぞれの地域の個性を伸ばしていくということが一番大事でございまして、その地元の方々が、その地域、先ほど歴史の話がございましたように、歴史の中で個性を伸ばしていただければというふうに思っております。これをソフト面、ハード面はなかなかと思いますが、特にソフト面でその個性を伸ばしていくことが、神戸の魅力をどんどん高めていけるのではないかなというふうに、個人的に思っています。

○会長

ありがとうございます。

お願いいたします。

○委員

バスの現状について少しお話しをさせていただいて、課題とかを話しをさせていただきたいと思いますが、三宮駅を発着しておりますバスが、いま現行では、一般の路線バスでは3,000便以上、また高速バスでは1,000便以上が三宮から発着しております。一般路線につきましては、乗り入れ事業者が8社ということで、神戸市バスを中心に三宮駅から放射線状にバスが出ておりますし、また高速バスに関しましては、運営しておりますのが20社以上ありまして、他府県からも乗り入れている共同運行会社を含めると、50社以上のバス会社が三宮の周辺に入ってきているというふうな状況です。

先ほど来、委員の方から、バスターミナルをつくっていただきたいというお話、ありがたいお話もいただいております。この数を一つにするのは、ハード的にも、物理的にも無理だと思いますので、例えば高速バスが、いま現行、5カ所に分かれております。ミント神戸を中心に、神姫バスのバスターミナル、また2号線沿いから5カ所が出ておりますけれども、高速バスにつきましては、大体、方面が一方方向に出ていきます。ただし、路線バスのほうは、北のほうへ上がったたり、南のほうへ下がったり、また西へ、東へというふうに各方面に行きますので、なかなかこれを1カ所に集約するというのは難しいかとは思いますが、高速バスの場合は、大体、インターの方向に行きますので、同じ方向に行

きます。ただし、そういった物理的な場所があるかどうかは別といたしまして、将来的には、長期的にそういったターミナルの整備をお願いしたいというふうに思います。

それと、先ほど来、L R Tという話が出ておりますけども、最近バス業界ではB R Tという推進を進めておりまして、国土交通省のほうもガイドラインを作成していただいております。兵庫県のほうでも三田市のほうで接続バスを導入いたしておりますので、どういったバスかといいますと、2両を1両でしたようなバスとバスをひっつけて走らせるバスですけども、乗車定員が約110人ほど乗れますので、先ほどポートライナーのお話がありましたけども、なかなかポートライナーも、この前もNHKで報道されていましたが、かなり混雑しておりますので、今後の検討課題としましては、L R Tと含めて、B R Tの導入を検討いただきたいというのが1点です。

あと最後の1点は、三宮駅前周辺が、タクシー、バスでかなり渋滞しております。特にミントの東側の交差点からJ Rの三宮の間に関しましては、特に朝すごく渋滞しておりますので、その間につきましては、できればトランジェットモール化をしていただいて、一般車の乗入規制をしていただきたいというふうに考えております。

○会長

どうもありがとうございました。

そうしましたら、経済団体から、お願いできますか。

○委員

青年会議所は40歳までの団体ですので、多くの先輩の方の中で発言をさせていただくのはちょっと恐縮するところではございますが、逆に、今後10年、20年、あるいは自分の子どもの世代を考えると、30年、40年は考えていかなければいけない立場ということの中で、多くの経済環境の変化であるとか、都市間競争云々というお話が先ほどからもありましており、危機感をかなり、データに裏付けているわけではないんですが、漠然とはしているかもしれませんが、非常に危機感を持っていることは間違いありません。

ただ、いろいろ今までも調べさせていただいたり、実際に体験させていただく中で、神戸というのは、まだまだ十分にポテンシャルは持っていて魅力があるところ、もちろん不完全あるいは問題点もあるところはあるかもしれませんが、十分まだ闘えるものは持っているのではないのかなと。そういった中で、まちの魅力をしっかり発信する仕掛けであるとか回遊性の向上というのをしていくことが、まず重要なのではないのかなと。一発逆転、これをやったらすべてが解決するというのは、もうもはやこの時代では難しいのではないのかなというふうに考えております。

○会長

ありがとうございました。

○委員

経済界は、我々3つの団体が一緒になっていろんな勉強をしました。勉強の成果は「提

言」ということで、先日、市長にお出ししているんですけれども、今日はそのPRをするということではなくて、その提言をつくる過程で、やっぱりみんなが悩んだこととか考えたことということの一端をご披露しておきたいと思います。

まず、神戸ってどういうところで、神戸らしさって何なんだと、神戸良いところ、悪いところって、議論も書いてありますけれども、いうのがありますして、いろんな意見あるんです。でも、私どもというか、少なくとも私は、この地図をご覧になれば、非常に海があり山があり、よく言われること、その間狭いところにコンパクトにまちができていて、それがいわばいろんな魅力を持っているということ、いろんな考えがあると思います。もっと駅を集約してはどうかとかいうのもありましたけれども、昨今、国土経営でも、やはりとしてはやはり分散ネットワーク型、それぞれがそれぞれの個性を持って、それをネットワークするというのがよく言われることで、一極集中型の開発とか整備というのは昨今あまり評価されてないように思います。

それで、この地図に、例えば大阪駅周辺を同じ縮尺で重ねてみる、あるいは京都でもよろしいです、名古屋でもいい、いわんや東京、重ねてみてごらんになりますと、やはり本当に宝石箱とは言わないですけども、本当にコンパクトにいろんな魅力が歩ける距離に集まっている、これが神戸の魅力であり、これからまちづくりを議論される都心のときも、都心の議論のときも、やはりそれを原点にすべきであろうというのが私の感じていることであります。

私からは、今、そういうコンパクトさというのを一つ申し上げておきたい。

それから、悪いなど、良くないなどというのは、もうはっきりしています。メンテをちゃんとしてないということです。もうごちゃごちゃしているのは、長い歴史の中で三宮のターミナル周辺がごちゃごちゃしていて、問題は、乗り換えも、ほかから来た人はね、我々はここで働き生活しているからわかりますけども、本当に初めて来た人は、「何や、これは」と、乗り継ぎするにもね。バスなんか乗り換えようと思ったら、「どの停留所へ行ったらいいんだい」とこうなっているのが実態なんです。だから、そこらをやっぱりきちんと、混雑していても、今の現状においても、わかりやすくもっと表示を増やすとか、通路の色分けをすとか、何かもっとやるべきだろうと思っていますから、まずとにかく整理しましょうよと。だから、今回の三宮の話、三宮駅周辺の話も、JRさんのほうで駅ビルの建て替えの構想をお持ちになる、また阪急さんもビルを建てる構想ある、それに合わせて、すっきりさせましょうということです。

それで、規模からいうと、大阪や京都や何やと全然違うんで、そもそもが。ですから、玄関機能に徹していただいて、ファサードをきれいにするというで考え、場合によっては、どの部分をピロティとして位置づけるのか、どの部分をパティオとして位置づけるのか、要はそういう空間としてすっきりさせましょうということが必要だと思います。今はそれができてない。

だから、よく「5 S運動」言いますね。整理、整頓、清潔、清掃、躰、やっぱり市民の躰も大事だと思います、まちを本当にまちづくりする上では。汚い、大体。居留地とか北野とか、割と行政も意識されるそこはえらいきれいになる。ちょっと脇道へ入ると、もう道路はパッチワークみたいですよ。工事のたびに掘り返して、アスファルトをそこだけペッペッとやっていますから。要は、ガードレール一つとっても、看板一つとっても、とにかく汚い。きれいにしましょう。それは市民も協力して、その市民の躰も大事であるし、その5 S運動的なことでまちを維持する。それで、建設局の維持というのにもっと重点を、メンテナンスにもっと重点を置かれる必要があると、こんなふうに思います。

○会長

ありがとうございます。

お願いします。

○委員

先ほどもお話しがありましたが、3団体が一つになってこのたび提言書を作成して提出いたしました。

提言書の内容は私が詳しくと言いましたが、ちょっと2分や3分で話せませんので、またいろいろところで提言書もお配りをさせていただいて、皆さんにそのアイデアを共有していただけたらと思うんですが、ぜひこの場が、意見をまとめるのは恐らくなかなか加藤先生の力をもっても難しいと思いますので、極力そのアイデアをたくさん出させていただいて、そのアイデアを一つ一つ取り上げていただいて、有益なものを探していただくというお考えで進めていただけたら。「何か言ったけど、何も出てなくて、市の何か先にあったプランに全部まとまっていますね」ということにはならないでほしいなという希望を持っております。

それから、提言書につきましては、先ほど言いました都心エリアということで、三宮駅周辺についての提言書をつくっております。それと、もう一つは、「日本を先導する都市神戸20の提案」ということで、この2つ提言書を持っておりますので、またこれを事務局のほうにお渡しいたしまして、取り扱いについてはよろしくお願いをしたい、このように思っております。

それから、これは私の、皆さんから出た意見について付け加えることはないんですが、私が一番気になりますのは、さっき躰の話で教育のことがちょっと出ましたけども、何でもハードで解決しようというふうにして、かなりお金をかける話になるんですが、もし市民の方が、パンフレットを持って、あるいはガイドブックのようなものを持って、カメラを持って、どうも観光に来られたなということ、もし外見から見てはっきりわかったら、自分に時間の余裕があれば、「お探しですか。どこかご案内しましょうか」というふうに一言言えば、それは神戸市民ですから大方わかるんで、わかればそこへご案内をして差し上げたら、案内所も何も要らんわけで、逆に、来られた方は「神戸はすごい温かいまちや

な」というふうに思っていただけではないか、こんなことを一つ思いました。

○会長

ありがとうございます。

どうぞお願いします。

○委員

そしたら、2つお話しをしたいんですが、1つは、神戸のまちの魅力化、特に居住されている方ではなくて、観光でいらっしゃる方とか外のまちからいらっしゃった方にとって神戸のまちを魅力化しようと思うと、当然、まちというのは面なんですけど、やっぱり各エリアの魅力化、エリアというのは、今回のテーマにもなっていますが、新神戸ですとか、北野、三宮、元町、ハーバーランド、やっぱりそれぞれのまちがどれだけ魅力化になっていくのか。今、正直いいまして、私は小売業で働いているんですが、「時間消費型」という単語をよく使うんですけど、やっぱりそれぞれのまちが時間消費、本当にたくさんそこに滞在をしていただけるようなまちにしていかなければならないと思います。そのまちが、それぞれがしっかりと特徴化をして時間を消費できるまちがそろえば、まちというのは発展するんだらうなというふうに思いますので、まずそのそれぞれのエリアがどういうふうにその時間消費に適したまちにしていくなのかということを考えていく必要があるだろうというふうに思います。

2つ目は、何人かの方もお話しがあったと思うんですが、それぞれのエリアが当然魅力化していくと、それをどう繋げていくのか、インフラの整備になると思います。先ほど神戸はコンパクトなまちというお話もあったんですけど、徒歩で移動される方も多いです。地下鉄で移動される方も多いです。バスで移動される方も多いです。車で移動される方もいらっしゃいます。それぞれの交通手段を見たときに本当に移動しやすいのかどうか、組み合わせするときも移動しやすいのかどうかという視点で見たときに、先ほどもお話しありましたが、なかなかまだ神戸っていうのはわかりにくいところがあるんだらうなど。こういうインフラの整備は、それぞれが考えてミックスしていかなければいけないんだらうなど。

あわせて、インフラということで考えますと、今、先ほどクィーンエリザベスの話がありましたけど、外国人の方がいらっしゃったときに、まだまだ歩きやすいまちかというのと、案内看板ひとつとってもわかりにくいですし、Wi-Fiの整備をとってもまだまだ十分ではないというふうに思いますので、このインフラというのもしっかりとやっていくということで、2つ取り組んでいかなければならないのかなと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○会長

ありがとうございます。

そうしましたら、お願いします。

○委員

私は11年前まで東京のほうに住んでおりました。その後、大阪で仕事をするようになって、妻から、「大阪で仕事をするなら単身で行け」と、「神戸ならついていってあげる」と言われて、その後、3年間ほど神戸で住みました。その後、やむを得ず大阪のほうへ引っ越しましたが、いずれ永住の地は神戸だなということで、この委員会に参加して、より一層魅力のある神戸になっていったら良いなというふうに思っております。

私は、エネルギーの立場でお話します。エネルギーに関して都市の魅力を出すというのは、これはちょっと一般的には難しいんです。神戸の都心だけ電気、ガスの料金を安くするのは、現時点では難しい。しかしながら、熱に関して、これは給湯とか暖房とか冷房ですが、この熱に関してはその利用料金を下げることが可能です。神戸は未利用熱資源に恵まれています。例えば工場廃熱とか、あと海、海水ですね、それから地下水、下水といった未利用熱があります。未利用熱をコンパクトなまちの中でうまく使っていくという仕掛けが考えられます。

実は、神戸はもう既にスラッジセンターの廃熱をうまく使って住宅に供給しています。たしか月1,500円で、定額料金で給湯をカバーするというようなことをやっておられると思います。これはスラッジセンターの廃熱をうまく使った事例ですが、今後、先ほど申し上げましたように、海が近いので、海水が利用でき、山に近いので山のほうから地下水が流れてきている、この海水、地下水に加えて下水、それから工場廃熱ですね。清掃工場だけでなく、製造工場も含めた工場廃熱を熱エネルギー資源として都心で使っていくことが重要です。そのため何がネックかということ、工場廃熱など熱を運ぶのにお金がかかることです。湾岸に沿っている高速道路に熱を運ぶ配管を取り付けるとか、あるいは先ほど海とまちを分断している高速道路を地下化するという意見が出ていましたが、地下化時には、ぜひ熱エネルギーを輸送する配管の整備をあわせてやる必要があります。併せ技でやれば安くできます。

都市内での熱の有効利用策を実施し、日本一安い熱料金の都心、冷房、暖房、給湯の料金が安い都心を実現するという目標を設定することを提案したい。

○会長

ありがとうございます。

○委員

私からは、夜間景観の立場で、2つご提案したいと思います。

私は照明の専門家でございますので、世界中の夜間景観を常々取材し、そして都市がどうあって集客をしたり、あるいは快適な時間をもったりするかというのを調査していくことも仕事なんですけども、そういったところで見えてまいりますと、明らかにこの数年で、それも10年くらいのわずかな期間で、大きくいろんなことが変わりました。そこで、そういったところから2つ申し上げます。

1つは、日常の夜間景観についてです。これは、日常的な夜間景観がつくられてまいりますと何が起こるかという、どの都市も一緒なんです、例えば人がある時間まで夜にいと、あるいはデートをすると、御飯を食べにいく、あるいは飲みに行く、そうやっていろんな行為が発生して行って、あるいは泊る、まちそのものの人の流れが変わります。そういった意味で、神戸市さんは、実はもうこの数年、本気で夜間景観を良くするために取り組んでいらっしゃるし、方針もつくっていますし、粛々と改善して行っている。そして、それらの方針に対して、民間も、官も民も協力できるところが、できるところが、やり出しているんですが、それに続いて、最も大事なものは、各エリアごとの特徴を、本当に個性を際立たすということなんです。

先ほどから皆様からそういう同じことが出ておりますが、明かりの場合もはっきりとそれを打ち出していくことができ、例えば南京町には南京町らしさを本当に追求するということです。もう本気で取り組んだらどうだろうということ。旧居留地は、今、もともとガイドラインをお持ちですけど、明かりももっとできるんですね、居留地らしさというのをまだまだやれるし。そうやって路地だったら路地の、乙仲だったり、センターサウスだったら、そういう路地のよさが、でやって行っているわけですけど、今、もう既に実行されつつある。

その中で一番大事なのは、やっぱり港だと思うんです、神戸港。何はおいても六甲山と神戸港というのは、京都、大阪、神戸を一つの商圈とみなしたときの一番のポイントになるところで、その港が、実はなかなか。ハーバーランドのほうは進んできましたし、日本で初と言え海外のような商業地を持つ港として、30年ぐらい前にやれたのはすばらしいことで、その姿を今も保ちつつ、なおかつやって行っているわけですけど、やはり具体的に申し上げると、メリケンパーク、あるいは第一、第二、第三埠頭、この辺をもっと、計画はあると思うんですけども、急いで頑張る必要があるんじゃないかと。港の風景そのものは神戸の売り言葉の最大のポイントですので、日常の夜景という意味でいくと、このまま放置してはいけない、急いでやらないといけないんじゃないか。

皆様、先ほど出ましたけど、シンガポールの話。これは、世界の港湾都市いろいろ見て歩いておられますが、あんななったのはこの数年なんです。前からじゃないわけです、シンガポール。前はシドニーとかサンフランシスコとか行ってきた港があったと思うんです。シンガポール、前言ってましたかっていう話なんです、10年前、どうですか。ライバルだったかっていったら、全然違っていた。この数年で圧倒的な魅力です。そして、マスタープランがあって、商業地、中型商業地、最新の開発地、そして住宅地、川を上っていくたびに住宅地まで違うマスタープランの中で違う明かりが計画されていまして、あるいはアラブ人街、チャイニーズタウン、インド人街、それぞれ違う夜間景観を目指しています。

神戸も、規模でいうと、ちょうどいいですね。大阪とかは大きすぎてすごく大変なわけ

ですけれども、先ほどから何度も出ています、コンパクトだからできるっていうやつがまさにありますので、それを、もう計画はやりつつありますから、加速させる、それがいいんじゃないでしょうか。

2つ目。2つ目は明かりのイベントのほうの話なんですけど、これはルミナリエは本当に知名度があって、全国的な集客力がある。でも、先ほどおっしゃっていましたが、ルミナリエだけ見て帰っているというのが事実でございます。回遊してないです。ルミナリエを見た後に、神戸のまちじゅうを回遊する仕組みにはなっていない。

そこで、ご紹介したいのがリオン、あるいはシャルトル、あるいは他のまちもあるんですけども、世界にはまちを回遊させるような仕組みを持った明かりのイベントを、フランクフルトもです、仕掛けているところが幾つもございます。

具体的にどんなことをするかというと、ちょうど神戸はそこと近い規模なんです、やはり回れるぐらいの、大体2時間ほどで回ればいいんです。2、3時間で全体を歩いて回ればよくて、そこそこにアートがある。アートとデザインがあるというのがやり方なんです。大阪でやっているイルミネーションのようなやり方ではなくて、あれはつぶつぶのイルミネーションをいろんなところでやっているタイプなんですけども、例えば、ところどころに、拠点に明かりのアートあるいはデザインが置いてあって、マップがあって、バスやLR Tで巡っていくと、歩いてもちろん行くんですけども、そういうやり方を、ルミナリエがありますので、これは強い。親分がおりますから、ルミナリエと……、巡らすというようなやり方はいかがでしょうか。

以上です。

○会長

皆様のご協力を得て、一応、全員の方にお話を伺いました。

あと、数分残っております。これだけはちょっと言い残したので発言しとこうということがございましたら、挙手いただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

よろしゅうございますでしょうか。

冒頭申しましたけれども、もう時間を限ってしまいましたので大変失礼なことを申し上げたんですけども、ぜひとも、言い残されたこと、ご疑問点、事務局のほうに、直接、お手元の用紙でご指示いただければというふうに思っております。

今日は、もう本当にそれぞれの立場からどのような視点があるのかということをご皆さんで共有する場として、この会議、第1回目をもたせていただきましたので、その辺りお考えいただきまして、次回に向けて事務局からの整理を待ちたいというふうに思っております。

そうしましたら、事務局のほうに返したいと思います。

○油井計画部長

長時間にわたり大変貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。

時間がございましたら、今日欠席の先生のご紹介もさせていただきたいと思っておりますけれども、ちょっと時間がございませんので、今回いただいた多種多様なご意見をまた次回に向けてまとめさせていただくときに、欠席された先生方のご意見もまとめさせていただきたいというふうに思います。

なお、今日だけでは言い足りなかった委員はたくさんいらっしゃるんじゃないかと思っております。事前に配布させていただいております指定の用紙に、例えばご記入をいただき、ファクスをいただくか、また記載のアドレスまでEメールなどの方法で事務局までお届けいただきますと、幸いに存じます。

第2回の検討委員会でございますけれども、6月ごろを予定してございます。まだ日時、場所については決定しておりませんが、決定次第、お知らせをさせていただきたいというふうに思っております。

また次回の検討委員会での議論していただくテーマ、また資料については、今回同様、事前に送付をさせていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いたします。

4. 閉会

○油井計画部長

それでは、最後に、都市計画総局長の山崎より、一言ごあいさつをさせていただきます。

○山崎都市計画総局長

都市計画総局長をしております山崎でございます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中をお集まりをいただきました。それから、長時間にわたりまして、本当に多岐にわたるいろんなご意見を賜りました。この場をお借りをして厚く御礼を申し上げます。

市長も申し上げましたように、都心の未来の姿をゼロから検討していこうとそういう委員会でございます。次回以降も忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げまして、閉会の言葉とさせていただきます。

本日はまことにありがとうございました。

○油井計画部長

本日はこれもちまして閉会をさせていただきます。

本当に、委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご出席をいただきまして、まことにありがとうございました。